



プロセスごとに
課題を課す

学生同士のピアレビューも 評価に

英語のライティングの授業でレポート機能を使ってエッセイの課題を出しているというLevirs先生。その活用スタイルはかなり特徴的です。学生は、まずエッセイのイントロダクションを作成して、初回の課題を提出。提出物を教員がチェックしている間も、ボディにあたる部分を書き進め、書き終われば学生同士でピアレビューを行います。ピアレビュー終了後は、ピアレビューをした相手の原稿をレポートとして提出。同時にピアレビューをした相手にも原稿を返却します。

「誰と組むかは、学生自身に任せています。大切な成績に関わることから、自分たちで選ぶ権利があるはず。怠けている人とは、みんな一緒にやりたくないでしょうというメッセージも込めて、この方法を取って

います。友達に直してもらった内容については、納得できなければ、自分のやり方をそのまま突き進めても問題ありません。ピアレビュー後のレポートで私が評価するのは、学生がお互いに直した内容です」。

提出を重ね、レポートを磨く

そもそもピアレビューは、学部全体として推奨する傾向がある上、Levirs先生自身も高い効果を実感している。学生同士が、日本語で教え合うことにより、教員が英語でレクチャーするのは、また違ったレベルの理解が生まれるのだといいます。互いにレビューして理解を深めたところで、学生は自分のエッセイを見直します。ピアレビューの内容を参考にしながら、いよいよファイナルドラフトを作成していきます。

何度も改善を重ねるプロセスを大切にしながら、じっくりと文章をブラッシュアップして、1学期に1つのエッセイを完成させるのだとか。ただし選択科目では1学期にチームエッセイとソロエッセイ、両方の課題を提出。これらのクラスではディスカッションや互いのコメントをやりとりする場として、プロジェクト機能も活用しているといいます。

「段階的にレポートを提出して、1つのものを完成させるような方法は、紙ベースでは無理。webだからできたことですね」。

都度、成績公開で モチベーション向上

また、数度に渡るレポート課題の成績は、その都度、成績機能で公開されています。「可視化させるということが私のポリシー

1 英語W2のレポート一覧画面です。学生は、エッセイ作成に向けて段階的に設定をされているレポート課題を提出していきます。

2 英語W2の学生のレポートコレクション画面です。教員は学生のレポートを採点し、成績機能を用いて点数と講評コメントを返却しています。

でもありますし、結果が返ってくると学生のモチベーションにもなります。できれば『何がダメだったから、こういう成績なのか』と質問してきてほしいですね。学生が自分のエッセイのどこが悪かったかを理解することが大切だと思います」。

ポテンシャルを 高めるための要素

課題に関しても同様で、学生が間違えた部分をきちんと理解した上で修正することに意義があるのだといいます。前述のエッセイも然り。学生により成長してほしいからこそ内容の濃い課題を課すのだとか。課題の一環として、授業や宿題の参考となるURLのリンクをmanaba上に貼って、「この内容を読んで文章を作成して提出しなさい」といった指示を出すことも。エッセイ

の課題完成までの期間に行われる授業では、文章の構成や使いやすいフレーズ、句読点、引用の仕方などを学んでいきますが、学生には、常にしっかり準備をして授業に臨むよう伝えているそうです。

アクティブ& リアルタイムな活用へ

現在は主に授業前後の学習にmanabaを活用しているものの、将来的には授業中にも、より積極的にツールを使っていきたいというLevirs先生。

「授業内でライティングをして、リアルタイムにフィードバックを上げるなど、アクティブなライティング講座ができるようになったらいいですね。学生も教員からもらえるコメントは多い方がうれしいし、早ければもっとうれしいでしょう」。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席